

ばらんす

第28号

編集発行

大田原市総務部企画政策課
男女共同参画係
〒324-8641
大田原市本町1丁目4番1号
☎ 0287-23-8701
FAX 0287-23-8748

男女共同参画講演会

1月31日(日)、大田原市総合文化会館ホールで男女共同参画講演会が開催されました。「婚活」、「パラサイト・シングル」を造語した中央大学教授、山田昌弘氏の「うちの子はなぜ結婚しないの?」と題した講演と、第8回大田原市女性の海外研修報告がありました。

晩婚化・未婚化時代を生きる!!

少子化や高齢化に代表されるように、あなたを取り巻く生活環境は急速に変化しています。個人の価値観も多様化しています。

経済面においても、昨年来の世界同時不況で会社が倒産したり、失業者が増加するなど、経済格差の拡大が進んでいます。

それでも「男は仕事、女は家庭で豊かな生活を築く」ことを夢見ている女性が多いとの実態があります。

現実には厳しく、満足感は得にくい実情であります。

2005年の人工問題研究所の調査結果では未婚率は30歳前半で、男性47%、女性32%となっています。



晩婚・未婚化の背景は?

1 経済環境の変化

男性の収入不足による、生活不安が増大した。

2 自己実現意識の高まり

自分のライフスタイルにフィットする出会いは減少している。

3 交際機会の拡大

出会いの機会が増大し、「もっといい人がいるかも!」と選択肢が拡大している。

4 伝統的性役割分業へのこだわり

夫の収入で生活するのが当然との意識は継続している。共働き意識は低下している。

5 パラサイト・シングルの増加

経済的に余裕のある親と同居する若者は結婚願望が低い。

婚活はあなたが変わらなければ!

待っていても相手は来ないし、いないし、選ばれません。婚活は、あなたの行動と意識改革が必要です。

1 専業主婦はもはや高値の花!

収入の自然増加は望めない。期待の切り下げ、男性経済力依存からの脱皮が必要。

2 働く女性を応援しよう

ゴミ出しも出来ない男性がいる。男性の家事能力向上・育児参加が求められる。

3 パラサイト・シングルからの脱皮

豊かな生活は結婚への動機づけが低下。将来の不安を払拭するように親が自立をうながす。



“Very Berry”の皆さんによるオカリナ演奏

第8回海外研修報告(Essor)

エソール(飛躍)をスローガンにフランス・オーストリアを訪問して来ました。教育・福祉(ウィーン)、環境(パリ)の視察研修を通じて、取り組み、考え方、文化を学ぶことが出来ました。研修内容の詳細をスライド・ウイットに富むナレーションで報告されました。引き続き、10名のメンバーからホームステイを通じて家庭・家族のあり方など「貴重な体験」が出来た、との報告がありました。



ばらんすの名の由来…「バランス」のとれた社会を目指し、これからは「累敵に輝かしく生きたい」ということを願い「ばらんす」と名付けました。

「牛」の心

那須塩原市から畑田に嫁いで39年、坂主ユキエさんは、(昔)ジョセフィンファームの取締役です。

ジョセフィンとは、坂主さん宅で最初に北海道から導入した雌牛の名前です。ジョセフィンが基礎牛となり、坂主さん宅の酪農を支えています。

ジョセフィンファームの主商品はヨーグルトです。そのきっかけは、どのようなことだったのでしょうか？

「ユキエさんのはなし」

最初の頃は牛を飼い、牛乳を生産していた。そのうち牛乳で何かつくろうと主婦感覚でヨーグルトづくりを始めた。温度を保つため炬燵を使い、牛乳に菌を入れてやってみたが、正式に習ったことがなく発酵の温度で失敗を繰り返し、また手加減なので発酵せず牛乳のままだったりした。知識より体験と思いつく味を求め知人に聞き歩き、美味しいといわれるものが作れるようになった。



そのうち乳製品の自由化となり乳価は下がりが、子牛の値は高くて、産は売っていたがその価格も下がった。その頃農業者である夫がヨーロッパへの農業研修に参加し、作れば誰かが売ってくれる農業から、自

分で生産し販路を開拓している姿を見出し、帰国後ヨーグルト生産販売を始めた。

保健所の認可など大変なこともあったが、夫婦力を合わせ進めた。

ヨーグルト生産も酪農が柱。大量の牛糞が出て堆肥にしたり、稲藁と交換して

牛の飼料や敷き藁としていたが、堆肥としてアスパラ栽培に使用することを考えた。アスパラの規格外の部分は飼料とし、堆肥の殆どをアスパラ用にして

いる。はからずも循環型農業となった。

下を向いて牛舎を行ったり来たりしていた毎日...これで一生終わるのかと思っていた...また、農家の嫁は自分の考えを表に出して言えないもの。ヨーグルトに出会い別世界を知り、私にしか出来ないもの...そして自分の居場所を得た。自分の作ったものが自分の価格で店に並び売れていくのを見て感動した。

「ユキエさんの夢」

牛乳の需要は減少傾向にあります。牛乳を飲むだけでなく、食べる乳製品を研究し、消費量をふやしたいと考えています。

採りたての牛乳を使つてすぐ加工し、安全で安心な乳製品を消費者に届けたい...食べる牛乳として食生活の中に根付くことが出来たら...それが夢です。



自分が変わり家庭が変わる 地域が変わり村が変わる

大田原市女性の海外研修派遣団
ウィング視察研修

2009年11月16日(月)ウィングの視察研修が、福島県相馬郡飯館(いいたて)村で開催されました。飯館村は大田原市女性の海外研修のきっかけとなった海外派遣事業をいち早く行った村です。首野典雄村長より歓迎の挨拶。若妻の質。その後の活動についてと題して講話があり、この事業で何が変わったかといえは、それは村長である私が一番変わった...とのことでした。その後交流会として「若妻の質」に参加した3名のお話を聞き、村の施設を見学してきました。帰路のバスの中、一男女共同参画に1歩も2歩も前進できる研修でした。ご参加者の感想でした。



ユキエさん
白いピアノ(調里音)を囲んで

シリーズ 輝

今回は(有)ジョ
ファーム取締役の
工さんとフラダン
沼弥生さんの登

心豊かな

フラをめざして

最近テレビや雑誌等で、若い女性や主婦が優雅にフラダンスを踊っている場面を見かけることが多くなった。

藤沼弥生さんがフラダンスを教え始めたのは1999年。フラダンス教室生徒募集のチラシを自分で作り、自分で配った。フラダンスというと、フラメンコ？とよく言われたという。最初は3カ所の公民館等で



教え始め、自分で書いてきたフラダンスの世界も、2009年4月にフラスタジオエレガントフラ・ハラウ・オフジヌマを開校。同年6月に那須野が原ハーモニーホール大ホールにおいて10周年記念コンサートを開催するまでに成長した。フラダンスは言葉

を形にして伝えるので、気持ちを伝えることが重要だが、日本人は形にこだわる。大切なことは自分の今の気持ちと向き合っていること。20歳の時の踊りと70歳の時の踊りは多少形が違っても良いと思う。普通に生活していることが幸せな時間だと思えば、その幸せな時間を心豊かに過ごしてほしい。心豊かな時間から豊かなフラは生まれる」と藤沼さんは言う。

フラダンスを習い始めた17年前、2人の子供たちの面倒を見るために月2回、宇都宮の教室まで同行してくれた実家の母、協力的な家族、いろいろな人との出会いに感謝！感謝！

ハワイの文化や歌が生まれた世界を教えながら、見た人が幸せになれる「心豊かなフラ」をめざしたいと話す藤沼さんの周りには、ゆったりとした時間が流れてゆく。



男女共同参画は家庭から

呼んでください。どこへでも出前しま〜す。とのキャッチフレーズで活動する、栃木県男女共同参画地域推進員大田原市連絡会(会長/増淵寛江)の会員で結成された、ぐるーぷクレソン。が昨年10月27日(火)に、黒羽ふれあい学級と黒羽男女セミナーの合同特別講座(黒羽川西地区公民館・多目的ホール)において、出前講座を開きました。

会場には合同講座のため年齢幅も広い男女52名が集まり、にぎやかな出前講座となりました。テーマは「男女共同参画は家庭から」と題し、家庭内の身近な問題を川柳等におもしろくまとめたものでした。講座を聞いた皆さんの感想は、男女の立場の違い、年齢の差からくる考え方の違いに、会場内は笑い声に包まれました。また感心してうなずく方もいて、楽しく有意義な出前講座でした。



『 支え合ってまち育て 』

11月10日、市役所東別館において、宇都宮大学教育学部の陣内雄次教授によるセミナーが開催されました。「まちづくり」から市民が主体となって良いところを見つけて伸ばして行こうという、「まち育て」を提言されました。「一人ひとりの意識改革、組織改革、参画、質の向上を図ることが大切であり、市民活動は楽しさがなければ続きません。必要とされることで生き甲斐となるような社会参加を行うことが「まち育て」につながります。子ども時代に社会参加させたり、大人が社会活動を見せることで、地域人材の育成の循環になります。」と語られました。

住み続けたい街にしていくための事例として、市民と専門家が協力して創られたグループホーム、男たちが立ち上げた高齢な男性が居心地の良いディサービス、曜日ごとにオーナーが変わるコミュニティーカフェ等が紹介されました。



親学習プログラム



市家庭教育オピニオンリーダー連絡会(会長/高橋美保子)は、就学児健康診断時に親学習プログラム(ワークショップ)を行っている。平成21年度は市内23小学校を10会場に分け開催した。

趣旨は、すべての教育の出発点である家庭の教育力向上を願ってのことである。

テーマは各会場の希望により、次の4テーマ①「子どもの生活リズムを考えていますか」

②「進んで挨拶していますか」③「子どものいいところを伸ばそう」④「ほめられるってどんな気持ち」に分かれた。

プログラムの内容は、子どもの理解と接し方・親子のコミュニケーションなど子育てに必要な知識や技術について学ぶ参加型学習。グループに分かれ話し合いを進め自分自身の問題に気付いたり親としての在り方について考えるきっかけをつくった。

話し合う中で未知の親同志が言葉をかわし子育てについて考え合い、今後6年間いっしょに学び合う親同志のつながりが生まれた。

進行役になったオピニオンリーダーは、市教委・教育事務所の指導を受けながら、プログラム企画立案実施し地域の教育ボランティアとして活動している。



～男女共同参画講座(後半)～

平成21年度男女共同参画講座の後半(4、5、6回)は、瓜生岩子の史跡を喜多方市に訪ねた現地学習(10月29日)と、～自分らしく考え行動するために～をテーマにコーチングについて学んだ。(講師:小林里江スマイルコミュニケーション代表、11月19日、12月10日)

◇瓜生岩子は明治期に我が国、社会福祉の礎を築いた女性で、日本のナイチンゲールとも呼ばれている。現地学習は、岩子が生誕した喜多方市にその足跡を訪ねた。

◇コーチングでは、他人との係わりにおける自分自身の態度・行動・心のあり方について学んだ。魅力心理士でもある小林先生の軽妙な語りいと笑顔で、当にコーチングを受けての研修であった。研修は、受講生同士の席順、配置換えによる出会い。グループ構成で受講生間の実践的な対話を通して行われた。

◇6回の研修を通し多くを学んだが、学んだ事を実践し身につける事が大切である。最後の研修にこんな話があった。その秘訣は、どんな人でも(三週間続ける)と習慣化できると…。



こんにちは編集委員です

皆さんご存知でしたか。「ばらんす」は広報紙ですが、普通の市民がボランティアで作っています。編集から取材、原稿の作成、最終校正まで市職員の皆さんでもなく、またプロの編集者でもない、わたしたちが行っています。掲載記事の中心も、わたしたちが見つけた「頑張っておられる市民」を毎回の「輝きシリーズ」で取り上げています。

「ばらんす」は手づくりの市民のための男女共同参画広報紙と思っています。より身近な広報紙になるよう、皆さんからの感想・ご意見などの声をお待ちしております。

編集後記

編集委員となり、男女共同参画に関わるようになりました。我が家では夫が料理を習い、時々作るようになりました。また、夫婦でセミナーや味噌作りに参加したり、男女共同参画が進んでいます。(磯)

編集委員 (五十音順)

磯 由美子 栗原 敏子 佐藤 長子 清水麻優美
鈴木 成美 住吉すみ子 谷辺 範夫